

# 地歴公民 (日本史) 慶應義塾大学 法学部 1/1

## <全体分析>

試験時間 60分

<p><b>解答形式</b> マーク式 50問(語句選択29問 正誤判定19問 年代整序2問)</p> <p><b>分量・難易(前年比較)</b> 分量 (減少・やや減少・<b>変化なし</b>・やや増加・増加) 難易 (易化・<b>やや易化</b>・変化なし・やや難化・難化)</p> <p>大問数4題・小問数50問で変化なし。語句選択問題が2問増加、年代整序問題が1問増加、正誤判定問題が3問減少した。史料の読解や年代整序も含め、試験時間60分で全設問をじっくり考える余裕はないだろう。</p> <p><b>出題の特徴</b> 大問4題中、I・IVは複数の時代にまたがる出題。IIは近代、IIIは古代からの出題であった。各大問で扱われる時代は毎年一定していない。多量の正誤判定問題の出題は定着している。</p> <p><b>その他トピックス</b> 早慶レベル模試の[5]で、本試Iと類似のテーマを出題した。</p>
--

## <大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	語句選択 正誤判定	古代～現代の災害と飢饉 《一部史料》	(11)(12)29「藤田東湖」は難。(5)(6)07「寛喜」、(13)(14)35「村山富市」、(15)(16)09「菅直人」はやや難。これら以外は平易な問題が多いので取りこぼしをしないようにしたい。	標準
II	語句選択 正誤判定 年代整序	近代の経済	(27)(28)13「小坂」鉱山、(29)(30)09「陸羯南」、(31)(32)20「鉄鋼研究所」、(39)(40)の年代整序は難。(35)(36)の正誤判定、(37)(38)の選択組合せ、(41)(42)の正誤判定、(45)(46)の年代整序、(47)(48)の正誤判定はやや難。語句選択・正誤判定・年代整序ともかなり細かい知識が問われているので、平易な問題は確実に正解したい。	難
III	語句選択 正誤判定	藤原氏の台頭《史料》	大問I・II・IVに比べて平易な問題が多い。(59)(60)の正誤判定がやや難。やや難解な史料を引用した問題であるが、設問文や史料中のキーワードをヒントにして、史料の内容を把握し高得点をめざしたい。	やや易
IV	語句選択 正誤判定	古代～現代の婚姻関係 解消と法	(85)(86)08「返り一札」、(89)(90)・(93)(94)の正誤判定、(95)(96)14「北沢楽天」は難。(79)(80)20「権門」、(81)(82)18「下知状」、(91)(92)・(97)(98)・(99)(100)の正誤判定はやや難。語句選択・正誤判定ともかなり細かい知識が問われているので、高得点は困難である。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

<p>詳細な知識を問う問題が多いが、基礎的な設問の完答をめざして、教科書を丁寧に学習することが何よりも大切である。難問に対しての学習対策は不要である。過去問にできるだけ多くあたり、法学部の特徴の一つである大量語群からの空欄補充問題に対応できるよう、語群を吟味して正解に近づくなど、応用力を身につけることも重要である。また、未見史料と関連設問からなる法学部特有の出題形式にも対応できるようにしておきたい。</p>
---